

スウィフトの謙虚な提案に見る諷刺の手法

Style of Satire in Swift's Modest Proposal

小島 弘一

1. To begin with

究極の諷刺とも称すべきこの“謙虚なる提案”にはスウィフトの諷刺手法の全てが駆使されていると言っても良いだろう。彼の著作の例にもれず語句は選びぬかれ、適切な折に適切な表現がなされ、さり気無い諷刺がキラリと光り輝くものであった。用心深いその手法は、いかなる批判にも耐えられるように準備されている。スウィフトの怒りの対象は、常に権力や権力を恣意に貪っている者に向けられ、人生に真摯に向き合い、賢明に努力している弱者に対しては、常に暖かい同情の念を示し、努力を怠っている患者に対しては呵責の無い叱責を浴びせるものであった。

スウィフトに根ざしているこれらの批判精神は、彼の出生と人格形成期に於ける数々の不幸な出来事、更には、テンプル卿の引き立てにより、国王をはじめとする宮廷貴顕との交流や、彼の筆力を認めた政党幹部との親しい交友の中にあつてさえ加えられた、様々な背信による挫折感に起因することが大きいと考えられる。

2. A mystery of his birth

更にスウィフトの人格形成に看過し得ない事柄に、彼の出生に関する不可解な数々の謎がある。1538年チェスター朝のヘンリー⑧世がトーマス・クロムウェルに命じて制定させた教区登記に拠れば、教区民の結婚、洗礼、埋葬は日曜礼拝の後、2名の教区委員のほか1名の面前において過去1週間分の記録を行ない、厳重な管理が求められていた。更に1645年には洗礼日と埋葬日、出生日、両親の名前などの記帳が教区聖職者に義務づけられるようになった。然しながらスウィフトの名はいずれこの教区にも見当たらず、母とされるアビゲイルに関して明確な記録が見当たらず謎を孕んだまま今日に至っている。奇妙な事に1歳半年長とされている姉ジェインの名はSt. Micann Churchで洗礼を受けたことが記録されている。

ジョナサン・スウィフトは1667年11月30日、チャールズ I 世統治下にグッドリッチの牧師であったトーマ

ス・スウィフトの五男、同名のジョナサン・スウィフトとレスターのアビゲイル・エリックとの間に生まれたとされているが、父ジョナサン・スウィフトは息子の誕生の7ヶ月前に死去、更に、誕生1年足らずの幼児ジョナサンは乳母によって、彼女の故郷イングランドのホワイトヘブンに連れ去られ、その後、3年以上も母親から引き離されてしまった。

その間、母アビゲイルはアイリッシュ海を渉るのは幼児には過酷であるとの理由からイングランドから連れ戻さず、そのまま放置してしまっている。又病弱の身であるとの理由から乳母を雇ったのであるが、寡婦に残されたのは17ポンドの年金だけであったことを考えると乳母を雇える経済状態とはとても考えられず、不可思議至極であり、我が子を連れ戻す努力をしなかったことも理解し難い。

とまれ、これらの事柄がスウィフトの真情に与えた影響は計り知れないものがあり、彼の女性観、母性観はこの時期より醸成されたものであろう。

終生彼の心情を揺り動かしていたのは、不幸にしてアイルランドに生を受けたイングランド人であるという想いと、父の愛のみならず、母の愛にも恵まれなかったという思いであった。そのスウィフトを経済的に支えたのが叔父ゴドウィン・スウィフトであったと推定される。その庇護の下、教育を受けたスウィフトだが、多感な青春期、常に経済的逼迫状態に置かれたが故に、その叔父に対して恩義を感じることも無く、終生感謝の念を示すことも無かった。然し、その叔父ゴドウィンには多くの養わねばならぬ子供がおり、大学教育を授けたのがスウィフトのみであったことを考慮に入れるならば、そこにも又何かの理由が存在していたことを示唆しているのではないか。

かくの如き出生に関する数々の疑惑と青春期に於ける経済的不満がスウィフトの性格に与えた影響は大きいものであった。彼の諷刺の矛先が充たされぬ思いと、そ

¹ Sir William Temple (1628-99) was educated at Emmanuel College, Cambridge, was envoy at Brussels in 1666, and visited the Hague, where he effected the triple alliance between England, Holland and Sweden, aiming at the protection of Spain From French.

れをもたらした根源に向けられたのもむべなるかなと思量される。

3. "Universal use of Irish manufactures"

スイフトの諷刺の集大成とも喩えられる"Modest Proposal"に彼はその手法の全てを投入したとも言い得るほどに諷刺の陳列窓の観を呈しているが、怒りは沈静化し、表現は種々の修辭を用いて温和で、刺激的な言辭は努めて排除されている。それ故に、その増幅された怒りが、冷静な陳述の衣を纏っていることで読む者を圧倒したのである。

彼の怒りの矛先はイングランド政府によるアイルランド政策の不条理にあり、その不条理性に気付かないアイルランド人の愚かさであり、気付いても何ら抵抗しないアイルランド人の不甲斐無さにあった。

1720年5月28日“アイルランド製品の全般的な使用”なるパンフレットによりイングランド政府によるアイルランドの対外貿易の制限と禁止に対する抗議を行なった。これは同時にアイルランド人に対する国内製品の消費の奨励を促すものであった。

イングランド政府による羊毛経済の推奨は封建地主達の羊毛販売の独占を招き、その生産基盤である土地での穀物生産を小作人に禁じ、それが地代の高騰を招き、地代を支払えぬ小作人は離農し、穀物生産は破綻、その為穀物価格は高騰し、アイルランドはイングランドからの穀物輸入に頼らざるを得なくなった。その為アイルランドの財政は更に悪化の一途を辿った。荒れ果てた耕作地は牧用地となり、農村人口は減少していった。

わずかな対仏貿易も1674年に行なわれたフランスの貨幣改鑄の結果貨幣価値が下落し、利益を疎外したばかりか、アイルランドで通用することの極めてまれな正金での決済は更にアイルランド経済を破綻の淵に追いやった。

かかる窮状打破に効果的な手段としてスイフトが提案したのがアイルランド国内製品の消費奨励策であった。当時裕福な階層の間では輸入商品が、とりわけご婦人との嗜好品、装身具類に高価な輸入製品があり、これらがアイルランドの財政を更に圧迫しており、これらを国内製品で賄う事により財政を改善しようとするものであった。

ここでスイフトはギリシャ神話のアラクネの寓話に題材をとって、諷諭Allegoryでイングランド政府に批

² Godwin Swift a granduncle to Jonathan Swift, he helped his nephew economically but Jonathan did not show any gratitude toward him.

判の剣を向けた。織物の技比べに負けた女神アテナイは勝利したアラクネを蜘蛛に変え、おのれの肉体を削って糸を紡ぐ事を命じたのはまさに、イングランドがアイルランドにしている仕打ちに他ならぬとイングランド政府の苛斂誅求ぶりに筆誅を加え、貿易禁止の不当性を訴えた。更にアイルランド国民に警句でもって、イングランドのアイルランドに対する収奪によってアイルランド国民が狂気に走らないのは愚かだと、奮起を促してもいる。

Oppression makes a wise man mad; therefore, consequently speaking, the reason why some men are not mad, is because they are not wise;

しかしながら、この提案が効を示さぬばかりか貿易制限が更にアイルランド経済を逼迫させている現状に危機感を感じて、1729年アイルランド婦人に対する国産品愛用の勧めを再び提案した。

4. "A Short View of the State of Ireland"

用意周到にもスイフトにはこの提案の2年前の1727年アイルランドの現状と題する小論文で、勤勉な国民性と整備された官僚組織をもち、国民の愛国心は高く、国王に対する忠誠心にみなぎっており、利便性の高い港湾設備を持ち、土地改良は進み、市場は人で満ち溢れ、製品の国際競争力には目を見張るものがあると輸出の可能性について陳述している。

更に1724年のドラピア書簡の成果にも触れ、ウッズの半ペンス鑄造の阻止によって貨幣価値が安定しているので、あらゆる日常品は自国産品で賄い得る状態だと論述して、イングランドによる輸出制限政策に警告を与えている。

Ireland is the only kingdom I ever heard or read of, either in ancient or Modern story, which was denied the liberty of exporting their native Commodities and manufacture, wherever they pleased;

牧畜に向けた土地柄のアイルランドの羊毛は品質が優れていたが、イングランド政府はその羊毛製品の輸出を禁止し、わずかに未加工の羊毛の輸出のみを許可していた為、自国の利益を疎外する恐れのある著者の提案を刑事訴追する動きを見せた。

これに対してもスイフトは"Two letters to the chief Justice Whitshed"なる書簡でWhitshedの名をあげて守

秘義務に違反する行為を古代ローマ皇帝トラヤヌスの例をあげて断罪し、警句 (Epigram) を投げかけた。

We are in the condition of patients, who have physic sent them by doctors at Distance, strangers to their constitution, and the Nature of their disease;

500%にも達する課税と不在地主の利益の大半をイングランドで消費されてしまう不合理さをアイルランドに生まれた悲劇であると、此处でも数字を挙げて止めをさしている。

不在地主による借地料の値上げがあらゆる日常品の価格高騰を招き、小作人は乞食にも劣る生活を強いられ、アイルランドでは豊かさの象徴であるはずの利息の低さが悲惨さの代名詞ともなり、一部の特権階級に富が集中し、アイルランドの銀の全てと、金の三分の一は失われ、50万ポンドあった流通貨幣は20万ポンド以下にまで減少していると、巧みに冷笑を誘う短い表現で訴え、このままではアイルランドは滅亡してしまうと、イスラエルの民に藁無しでレンガ製作を命じたエジプトのファラオのAllegory寓話を引用して、国民が塗炭の苦しみにあえいでいる現状を訴え、イングランドの政策が、金の卵を生む雌鳥を殺すに等しいと嘲笑した。そしてこの論を次の様に総括した。

If Ireland be rich and flourishing kingdom; its wealth and prosperity must be owing to certain causes, that are yet concealed from the whole Race of mankind; And the effects are equally invisible.

5. A proposal that all the ladies should appear constantly in Irish Manufactures

更に1729年、スイフトはアイルランド産品の愛用を女性達に訴えた。経済的苦境に立たされ、破綻の淵にあるアイルランドを救う道は内需の拡大と、外貨の流失防止策しか残されていなかったのである。この一文がWhitshedによって二国間の紛争をもたらそうとするJacobitesの仕業として、その印刷業者が訴追されたほどであったスイフトはドラピア書簡の例をあげて、国事に関する論説が及ぼす危険に触れながら、巧みな暗喩を用いて、穀物政策の失敗がもたらした悲惨な現実を諷刺した。

One spoonful of water thrown upon a rat already drawn

³ Jacobites a supporter of the deposed James 2 and his descendants.

would contribute to his death; and that the oversend plentiful harvest, although it should be followed by a dozen ensuing, would no more restore us, than it would The rat aforesaid to put him near the fire, which might indeed warm his fur coat, but never bring him back to life.

スイフトの諷刺の手法は唯単に言い放しただけではなく、具体的な解決法を数字を挙げて例証する点にあった。国家財政の建て直しには内需の拡大と、貿易振興が不可欠だが、それすら禁じられていると、従来の主張を繰り返し、関税収入を上げる為の方策として、ワイン1トン当り40シリングの追加課税の手法は輸出国の我が国の輸出品に対する課税強化を招き、実効は薄いと斬って捨てている。更に1728年"The Memorial of the poor inhabitants, trademen, and labourers of the Kingdom of Ireland"を出版して、1727年のパン用小麦の大不作が価格の高騰を招き、その結果大多数の国民が借金漬けとなった実情を踏まえて、その対策を論じた。此处でも数字による合理的な説得策を講じている。

アイルランドと比較して他の近隣諸国は豊作に恵まれているから、1バレル当り2シリングの割増金を支払ったとしても、1万ポンドの割増金で20万バレル輸入できるから当面の危機は回避できる。又輸入の情報だけで在庫商品の価格は低落するであろう。さすれば割増金もさほどは必要でなくなる上、嗜好品に対する追加課税でその財源は確保できると、経済の実態にまで論及している。かくのごとく、度重なる提案にもかかわらず、無関心なアイルランド国民と窮状に対するイングランド政府の無作為ぶりに怒ったスイフトは“謙虚な提案”の名の下で忌まわしい提案をする事でアイルランド国民の奮起とイングランド政府の無策を攻撃した。

6. "Modest Proposal"

前項「アイルランド産品着用の勧め」で用いられ“溺れかかっている鼠を殺すにはスプーンいっぱいの水で事足りる”とAllusion引喩を用いて、穀物不足に端を発したアイルランドの惨状を半ば揶揄しながら、アイルランドはイングランドの搾取で既に死に瀕していたのであって、穀物不足はそれに拍車をかけたに過ぎないとイングランド政府の政策の不当性を一貫して訴え続けたのがこの“Modest Proposal”である。

スイフトは常に怒りの矛先を権力に向けていたが、1724年のドラピア書簡に於いてその怒りは頂点に達した。アイルランド国民の側からイングランド政府の政

策に真っ向から抵抗し、ウッズのhalf-pence貨製造計画を無に帰せしめ、国民的英雄ともてはやされて以来アイルランド国民に注ぐ眼差しに若干の変化がきざしていた。然しながら、そのアイルランドが1720年以來の数々のスイフトによる提案、忠告に何らの反応も示さぬことに怒りを増幅させ、究極の手段として本稿で訴えたのであろう。本提案には、それ以前の諸提案と同じ手法をとりながら、炎の如き怒りを感じ得ることも無く、むしろ、無益な提言を無知な国民に行なっている絶望感すら伝わってくる。その表現はレトリックで幻惑しているが、冷静にアイルランドの置かれている立場を分析し、その特異性を認識した上での論理的な分析に終始し、現実を計数化して列挙する中で、論の正当性を理解させようとしている。その為取り上げた題材がいと子の子の肉体を食肉として輸出するという残酷さがアイルランドの置かれた現状の悲惨さをより克明に認識させているのである。その折にあっても、スイフトは第三者の立場を堅持している表現をとっていることも更にその効果を増幅している。嘲笑的な言辭を弄していても、何処か自嘲的口吻が垣間見られる。

貧しい両親の重荷となっている子供達を、その頸木から解き放ち、国家財政にも寄与できる有益な提案は、アイルランドを困窮に陥れているのがイングランド政府によるアイルランド政策の非道さにあることに対する強烈な諷刺であり、子供を死に追いやらざるを得ない窮状を招いているのはアイルランド国民の愚かさであり、その愚かさゆえの道德の低下であると、アイルランド国民に対しても痛烈な批判を浴びせているのである。

スイフトのおぞましい解決策は、アイルランド150万人中、20万組の夫婦が子供を産むならば、そのうちの3万組の夫婦は自力で養育が可能であろう。5万組の子供は1年以内に病死、または事故死するとしても、残り12万組の夫婦から生まれる子供達は貧しさ故に、養育できない環境にあるため、余儀なく幼少より盗みを働くようになる。これらは全てイングランド政府の不正な貿易制限と羊毛の輸出奨励策に起因した結果である。田畑が荒廃し、職と食料を失ったのも全てその原因がここにあると断罪し、12才まで育てたととしても、商品価値が無いばかりか、12ポンドにも及ぶ衣食費用がかかる不要なcommodityだと、日用品として子供をみなすことで子供の肉体を輸出することへの罪悪感を弱めている。一方1歳未満の子供達は母乳で養育できるので1年間に2シリングあれば事足りる上、滋味豊かで栄養価の高い総合食品として一人10シリングで

販売可能である。さすれば母親達は年に8シリングの利益となり、次子を生むまで衣食を賄い得るので、働くことの必要性も無く、十分に次子の出産に備えられる。この経済的效果を補強するべくスイフトは、その料理法にまで言及し、肉不足の解消や調理技術の向上、更にはバーコン製造技術にまで論及しその効果をEnumerationを用いて列挙している。然しながら、これらは全てアイルランドをイングランドの食料供給地としてしか見ていないその政策に対する強烈な諷刺であり、抗議であるのだ。

彼の諷刺の際の常套手段として、けっして一事だけでは終わらないのである。此処でもその肉の保存法を詳述することで、質素節約を旨としているクエーカー教徒を揶揄し、カトリック教徒に対しては、当然身を慎まなくてはならない復活祭前の40日間の齋戒期にも身を慎まない放埒振りとは自堕落の果てに多くの私生児を儲けている現状にも諷刺の刃を向けている。この方策を用いることでアイルランドのプロテスタント化を希求している政府は3人に1人のカトリック教徒を減らす効果も生じる上、イングランド政府を悩ませているJacobites問題にも効果があると、宗教政策への効果も訴え事の重大さを陰に潜ませた論法でアイルランド国民の自覚を促している。冷静な陳述の陰にあって、この現実には悲惨なのではなく、日常的に起こりうる事柄であることを認識させようともしている。

7. A style of his satire

イングランド政府による輸出制限と羊毛輸出奨励策がアイルランドの耕作地の荒廃を招き、その結果穀物不足が生じ、国民の大多数が困窮の底に落とされ、更に一部の富裕層による奢侈品、嗜好品の輸入が外貨事情を悪化させた。この経済的困窮脱却の手段として、アイルランドがとりうる手法は輸出奨励と経費削減しかないのだとスイフトは尋常な思考を展開しているが、その輸出品に1歳未満の幼児の肉を当てている。この極端なmetonymyを用いることで、貿易の制限が国民経済に与えた甚大な影響と、国民生活が破綻の淵にあることを暗示している。輸出代替物としての幼児の肉と言う衝撃的な意外性を和らげる為、その幼児の肉を単なる商品として認識させるmetaphor的手法でその有効性を伝え、prosopopoeia的にその商品としての有効性を列挙して、事態の残酷さ、悲惨さを覆い隠している。擬人法を逆手にとって、恰も商品が人肉でないか

⁴ Lent in the period of forty days before Easter, during which come Christians give up something that they enjoy.

の印象を与えている。

生後一年以内の子供の養育にかかる経費は2シリングあればじゅうぶんであり、10シリングで売却することで8シリングの経済効果を生む、以後毎年生み続けること、すなわち生産を継続し、売却し続けることで、12歳までにかかる経費は免れ、国家はそれによって年間5万ポンド負債を軽減させ得るので豊かになれる。この肉を樽詰めにして輸出することで、国内の豚肉の需要が減少し、その結果ベーコンの製造技術が向上するなど、enumerationを駆使して、おぞましい話題を何気ない日常会話的手法の中に押し込めて、その残酷さを表面的に隠蔽している。

このような深刻なからかいIronyは随所に見られ、8シリングの利益が意欲を刺激し、更に子供を産み国家に貢献するであろうし、法制化は更に意欲を刺激すると、簡潔な表現で皮肉交じりに事態の深刻さを訴えている。

Encouraged by rewards, enforced by laws,

四句節には子供が増えると隠喩Metaphorでカトリック教徒達の不行跡を当てこすり、とりわけ貧しい彼らが子供を売却すれば、アイルランドのプロテスタント化は加速されJacobites対策にも効果的だと論じている。又婚姻願望が増し、子供に対する虐待や幼児殺しや、妊娠中絶も激減すると、当時の道徳の低下していたアイルランドに対する諷刺も忘れてはいない。

We should soon see an honest emulation among the married women, which of them could bring the fattest child to the market, men would become as fond of their wives, during the time of their pregnancy, as they are now of their mares in foal.

スイフトがこの提案においてもっとも強く求めたのは、アイルランド国民に対しては己たちの置かれた状況が自らの子供を食肉として売らなければ生きていけないほど、追い詰められているという現状認識であり、イングランド政府に対しては、輸出制限と不公正な羊毛政策が国土の荒廃と農作物の供給不足を招き、国民を塗炭の苦しみに陥らせたことの確認であり、その解決策の方策を暗示したものであったのである。

8. Appendix

Having been wearied out for many years with offering

vein, idle, Visionary thought', and at length utterly despairing of success I fortunately fell upon this proposal.

永年にわたる数々の提案も、人々に受け入れられることも無く、無為に過ぎ去ってしまったが、アイルランドの奮起を促すことを期待してこの提案をした。この提案は決してイングランドを貶めるものではなく、費用もかからぬ最善の策である。イングランドの政策によって破綻してしまったアイルランド国民の衣食住を担保する唯一の方法でもある。100万人のアイルランド国民に200万ポンドに及ぶ借財の返済のための方途があるだろうか？との疑問を投げかけている提案でもあるのだ。

Having no other motive than the public good of my country, by advancing over trade, providing for infants, relieving the poor, and giving some pleasure to the rich.

スイフトが訴えたかったのは、独立国としてのアイルランドの自由であり、貿易の自由と、そこから得られる富の享受、貧者の救済と子弟の福祉であった。スイフトのこの提案に対して、トーリー党はその機関紙、craftsmanで反論を加え、George IIがアイルランドでの徴兵をフランスに認めた事は、アイルランド経済に利する為であり、十分にその成果はあるので、スイフトの提案はおぞましいだけで当を得たものではないと論じた。

これに対してスイフトは、外国への人材派遣は禁じられているにもかかわらず、国王の認可さえあれば外国からの徴兵要求に応ずるのは、ご都合主義であり、アイルランドの主権の侵害であると、反論した。そして彼特異の論法、若くて健康なアイルランド6000人に衣食を与えても、一人5ポンド、全員でも3万ポンドに過ぎず、現状のアイルランドの経済を救済するには役に立たないと斬って捨てた。更に、補充兵募集によってアイルランドは働き手を失い、その結果、牧畜に励まざるを得なくなり、量産される羊毛はその価格を下落させてしまうので決して利とはならぬと断じた。

1700万エーカーの土地を牧草地に変えるならば、一家族が2000エーカー管理できるとし、1680万エーカー、残り2万エーカーを芋畑に転用できる。一家族平均8人とすれば、この人員に常備軍2万人、雑役人、売春婦、私生児を加えると12万人になり、王国の防御と

⁵ The Tory member of the party opposed the exclusion of James 2nd and later supported the established religious and political order and give rise to the Conservative party.

牧畜には十分な人員となる。さすればカトリック教徒を追放し、Jacobitesを締め出す事が出来る上、税の徴収を彼らに任せることで、王室経費や従軍費を賄うことが出来る。トーリー党はここまで考慮に入れているのかと、理論的な陳述の中に、実践的な数値を当てはめallegoryを試み、更に対外貿易による利益や人口問題にまで論及して、イングランド政府の不当性を称賛的非難の手法を用いて諷刺している。

スイフトの比喩の手法は主意と媒体との間に存在する類似性に称賛的非難をこめている上、共感を得るべく更に、Simile直喩で補強している事である。

乳の出ない家畜は牧師に何も払うことが出来ない。

Dry cattle pay nothing to the spiritual hireling;

羊飼いが畑で終日寝て暮らしている様はさながら古代ギリシャのアルカデアだ。

The industrious shepherd and cow-herd may it, every man under his own Blackberry bush, whereby this happy island will become a new Arcadia;

ここでも穀物すら輸入に頼らざるを得ないアイルランド政策の不当性を訴え、アイルランドでは現金は無用である金利の低さは豊かさの象徴だがアイルランド

では悲惨さの象徴だ。

これは婉曲法Euphemismで輸出代金が支払われぬから、国内流通貨は少なく、現金による決済もままならず、誰も借金をする能力をもたぬので金利はあってなきが存在になっていることのMetaphorでイングランド政府を批判している。スイフトのパンフレットはこのように修辞の様々な手法を用いてきらびやかな装飾を施し、時宜を得た適切な用語で鋭い批判の刃を向けているものである。

References

- ・ Jonathan Swift: Irish tracts, 1728-1733. Basil Blackwell (Oxford) , 1971.
- ・ Jonathan Swift: Irish tracts, 1720-1723 and Sermon. Basil Blackwell (Oxford) , 1948.
- ・ Irvin Ehrenpreis: Swift: the man, his works, and the age. Harvard Univ.Press (Cambridge, Mass.) , 1962.
- ・ Kathleen Williams: Swift: the critical heritage. Routledge (New York) , 1995.
- ・ 新保昇一：諷刺・アイロニー・ヒューモア：英米文学論考ノート.現代文芸社（東京）, 1996.
- ・ 鈴木善三：イギリス諷刺文学の系譜.研究社出版（東京）, 1996.
- ・ 野内良三：日本語修辞辞典.図書刊行会（東京）, 2005.

Style of Satire in Swift's Modest Proposal

Koichi Kojima

Abstract

We here argue about Jonathan Swift and his works especially his famous pamphlet "Modest Proposal". Handling his various kinds of his pamphlets according to the date of publication. We also take up his way of satire by using a figure of speech. What Swift wanted to appeal to people of Ireland was to come to open to the stern realities of their situations, and for the Government of England, petition for reform of the laws, with recognizing why people of Ireland had to sell the dead body of their own children and asking to try to find where its main factor was?